

科目・分野	週時間数	クラス	担当者
公民的分野	2	A B C	能勢
目 標	①世界の動きを学び、世界の中の日本であることを理解します。 ②歴史に対する関心を高め、自ら疑問を発見し、調べる力と表現力を身につけます。 ①現代社会の様々な問題に目を向け、自ら考えていこうとする姿勢を身につけます。 ②経済の仕組みや国際社会の学習に必要な知識を身につけます。 ③学習内容をより身近に捉え、わかりやすく自分の言葉で発信する方法を学びます。		
大切に育てたいもの	意欲	思考力・表現力	資料活用
	より深い内容を知ろうと探求する気持ちや自分で調べ、興味を広げる工夫をする意欲。	調べたことを新聞やレポートにわかりやすく表現する力。授業で学んだ社会的事象を正確に論述する力。	さまざまな資料やグラフから、情報を正確に読み取り、活用する力。
			知識 歴史や公民の基本的な用語や、社会の仕組みをきちんと理解できる力。

学期	考查	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	第5編 近現代の日本と世界 第1章 日本の近代化 3 近代国家へのあゆみ 4 自由民権運動と国会開設	<ul style="list-style-type: none"> 近代国家としての歩みを進めながら植民地を求めて戦争を起こすまでの日本と、それを取り囲む世界情勢を把握します。 西洋の風習を取り入れる中で誕生した新しい思想や文化を知り、日本に訪れた社会的成熟について考えます。
	期末	第1章 日本の近代化 5 日清・日露戦争と東アジアの動き 6 近代日本の社会と文化 第2章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と戦後の世界 2 大正デモクラシーの時代	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦と戦後の国際協調の動きと日本との関連を理解します。また、民主主義思想の普及、社会運動の高まりから、民主化の芽生えについて考えていきます。
二学期	中間	第2章 二度の世界大戦と日本 3 世界恐慌と日本 4 中国との全面戦争 5 第二次世界大戦と日本	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦のきっかけとなる恐慌に対する世界及び日本の対応について考えさせます。 軍部の台頭から第二次世界大戦に至る流れを確認します。 戦争の悲惨さを知るとともに、そのなかで日本が戦前・戦時中に行ったことを理解し、その功罪についても考えます。
	期末	第4章 私たちの暮らしと経済 1 消費生活と市場経済 2 生産のしくみと企業・金融 3 財政と政府の役割	<ul style="list-style-type: none"> 企業の役割や、現代日本の企業の特徴や課題を学びます。 労働や雇用に関する課題を知り、働きやすい環境づくりのために何が必要かを考えます。 市場経済や金融のしくみを学びます。 財政のしくみや、租税の役割、市場経済における政府の役割を学びます。
三学期	期末	第5章 安心して暮らせる社会 1 労働と社会保障 2 これからの日本経済の課題 第6章 国際社会に生きる私たち 1 国際社会と国家	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化が進む日本の課題について理解し、今後の社会保障制度のあり方や生きがいのある社会をどのようにして築くかを考えていきます。 グローバルの視点を持ち、日本経済が直面する課題を身近な問題として捉えます。 世界のできごとと日本のできごとの関連性を発見し、国際社会に貢献できることを考えていきます。
評価の方法		定期テスト・課題テスト・小テスト・レポート・ノート作成などを総合的に評価。	
学習活動の特徴		質問に答えながら基本的な事項を理解する授業。長期休暇を利用した調べ学習によって、思考力と表現力を育成する。さらに、新聞を活用した発表を重視する。	
授業の形態		教室での発問を多く取り入れた授業。適宜、グループ学習を行う。	
使用教科書		中学社会 公民 ともに生きる（教育出版）／中学社会 歴史的分野（日本文教出版）	
使用副教材		公民資料2016・社会の新研究・公民基本用語集／新訂資料カラー歴史（浜島書店）・新中学問題集歴史Ⅱ	
用意するもの		教科書・ノート・資料集は毎時間準備する。社会の新研究・新中学問題集歴史Ⅱは主に家庭学習で使用する。	
備 考		毎時間小テストを実施する。 歴史の続きから学習し、二学期の後半から公民の経済分野と国際社会について学習します。	

平成28年度 学年 [3年] 教科 [社会 (政治分野)]

科目・分野	週時間数	クラス	担当者	
公民的分野	2	A B C	西川	
目 標	①現代社会の様々な問題に目を向け、自ら考えていこうとする姿勢を身につけます。 ②人権問題を中心に政治の仕組みや国際社会の学習に必要な知識を身につけます。 ③学習内容をより身近に捉え、わかりやすく自分の言葉で発信する方法を学びます。			
大切に育てたいもの	意欲	思考力・表現力	資料活用	知識
	より深い内容を知ろうと探求する気持ちや自分で調べ、興味を広げる工夫をする意欲。	調べたことを新聞やレポートにわかりやすく表現する力。授業で学んだ社会的事象を正確に論述する力。	さまざまな資料やグラフから、情報を正確に読み取り、活用する力。	公民の基本的な用語や、社会の仕組みをきちんと理解できる力。

学期	考査	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	第1章 私たちの暮らしと現代社会 1 私たちが生きる現代社会 2 現代につながる伝統と文化 3 私たちがつくるこれからの社会	1. 世代や世界各国のつながりを意識し、現代社会の特徴を学習します。 2. 受け継がれてきた伝統や宗教と進む科学技術を通して、豊かな生活とは何かを学習します。 3. 次代を担う生徒がどのような社会を構築していくか、それに必要な考え方等を学習します。
	期末	第2章 人間を尊重する日本国憲法 1 民主主義を支える日本国憲法 2 憲法が保障する基本的人権	1. 世界の人権思想史や現在の日本国憲法が制定されるまでの過程を学習します。 2. 政治や経済の根底となる基本的人権について正しく理解し、その必要性を学習します。
二学期	中間	2 憲法が保障する基本的人権 3 私たちの平和主義	2. 政治や経済の根底となる基本的人権について正しく理解し、その必要性を学習します。 3. 日本国憲法の三大原理の一つである平和主義の意義を正しく理解し、これからの安全保障のあるべき姿は何かを模索します。
	期末	第3章 私たちの暮らしと民主主義 1 民主主義と日本の政治 2 司法権の独立と裁判	1. 日本の政治の基本的な仕組みを理解し、実際に起きている国会や内閣での出来事を把握できる力をつけます。 2. 権利と秩序を守る司法を正しく理解し、私たちの司法への参加を主体的に考えます。
三学期	期末	3 地方自治と住民の参加 第6章 国際社会に生きる私たち 2 国際社会が抱える課題	3. 身近な地方自治を通し、私たちの政治への参加の意義を深く学習します。 2. 現代世界が抱える諸問題を通して、持続可能な発展は何かを具体的に考え、学習します。
評価の方法		定期テスト・課題テスト・小テスト・レポート・ノート作成などを総合的に評価。	
学習活動の特徴		質問に答えながら基本的な事項を理解する授業。長期休暇を利用した調べ学習によって、思考力と表現力を育成する。さらに、新聞を活用した発表を重視する。	
授業の形態		教室での発問を多く取り入れた授業。適宜、グループ学習を行う。	
使用教科書		『中学社会 公民 ともに生きる』(教育出版)	
使用副教材		『公民資料2016』(とうほう)・『社会の新研究』(新学社)・公民基本用語集(吉野図書)	
用意するもの		教科書・ノート・資料集・用語集は毎時間準備する。 公民の授業で、地理・歴史の復習小テストを実施。その学習に『社会の新研究』を使用。	
備 考		毎定期テストに時事問題を出题する。 新聞を使った1分間スピーチ・新聞の読み比べなどを展開する予定。	